

第50回(2005年)

- 問9 次の遺伝性疾患のうち、X線に対して高い致死感受性を示すものの組合せはどれか。
A 色素性乾皮症 B ブルーム症候群 C 血友病 D 毛細血管拡張性運動失調症
 ACDのみ 2 ABのみ 3 BCのみ Dのみ 5 ABCDすべて
- 問16 全身被ばくによる急性障害に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
A 大腸は十二指腸より障害が強い。
B 動物種により致死感受性が異なる。
C 細胞再生系では幹細胞の障害が主因である。
D 造血器系障害は骨髄移植により回復できる可能性がある。
1 ABCのみ 2 ABDのみ 3 ACDのみ BCDのみ 5 ABCDすべて
- 問21 放射線による発がんに関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
A 白血病の潜伏期間は被ばく線量が高いほど短い。
B 被ばく線量と悪性度には相関関係が認められない。
C 乳がんの放射線による過剰発生率と線量との関係はLQ(直線-2次曲線)モデルがよくあてはまる。
D 組織荷重係数とは、各組織における単位線量当たりのがん発生率のことである。
1 ACDのみ ABのみ 3 BCのみ 4 Dのみ 5 ABCDすべて
- 問22 放射線被ばくと発がんの関係のうち、正しいものの組合せはどれか。
A ウラン鉱夫と肺がん
B 頭部白癬X線治療と甲状腺がん
C ラジウム時計文字盤工と胃がん
D トロトラスト血管造影と大腸がん
 AとB 2 AとC 3 AとD 4 BとC 5 BとD
- 問25 X線による胎内被ばくの影響に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
A 器官形成期に被ばくした場合に奇形が生ずるしきい線量は10 mGy程度である。
B 精神遅滞が生じやすいのは妊娠25週目以降である。
C 精神遅滞のしきい線量は10 mGy程度である。
D 致死感受性が最も高いのは着床前期である。
1 ACDのみ 2 ABのみ 3 BCのみ Dのみ 5 ABCDすべて
- 問26 放射線の遺伝的影響に関連する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。
A 精原細胞被ばくによる影響は精細胞被ばくより小さい。
B 精子にはDNA損傷修復機能がない。
C 受精後の卵細胞では放射線による突然変異は発生しにくい。
D 倍加線量法ではヒトの自然発生率と動物実験データとを用いる。
1 ABCのみ ABDのみ 3 ACDのみ 4 BCDのみ 5 ABCDすべて